

よむよむNEO

No. 10

R2.4.24(金)



弁当は「一個」、
高級弁当は「一折」

「数え方図鑑」

やまくちかおり・絵
(日本図書センター)
NDC. 815

おいしければ
「どっちでもいいよ！」



「友だちだから。 君はぼくの友だちだからだよ。」

「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」
ブレイディみかこ・著 (新潮社) NDC-916

本屋大賞2019の「ノンフィクション本大賞」を受賞した本作。
昨年から大ブレイクがつづいているので、みなさんどこかで
この表紙を見たことがあるでしょう。

物語の好きな人は、ノンフィクション、と聞いて尻ごみするかもしれませんが
これは読んで良かったと絶対に思える名著。
昨年度、野村有希先生と私が「卒業生に贈る本」として選んでカブた一冊
でもあります。ルビ(読み仮名)のない本ですが、高学年のみなさんには
挑戦してほしいなあ。

世界にはたくさんの言語があるけれど、
日本語はとくに「数え方」がゆたかな言語なんだそうです。
犬は一匹、たけと盲導犬は一頭。なぜ？
ニワトリは一羽、でもペンギンは一匹。なぜ？
「三度」と「三回」は何がちがうの？
同じものでも形や場合によって数え方がちがうことがあるの？
ああ！ ややこしい。
でも数え方には、じつはひみつのルールがあるんだって。
動物と鳥の島、虫と花の谷、人びとの村……
いろんな土地を巡りながらひみつのルールをゲットしましょう。
これを知っていると、お家の人にじまてできるよ。
日本語、って、ほんとに豊かだなあ！ としみみうれしくなる
一冊です。

著者(かあちゃん)は、アイルランド人の夫と息子と3人でイギリスの公営団地で
細々と暮らす日本人。上流家庭の通うカトリック系の小学校に通っていた息子が、
公立の「元底辺中学校」へ進学することになった。貧富の差、人種のちがいなど、
あらゆる多様性のるつぽに放り込まれ混乱する息子。彼は、今まで晒されてこなかった
大小の差別や偏見を目の当たりにするたびに悩み、ときには憤りながら
自分の価値観と折り合いをつけ、怒濤の学校生活を泳いでいく……

中1の息子くんの、なんと思慮深いこと！ 社会をニュートラルに捉えようとする
姿勢が揺らがぬのも見事。その根底を支えているのは常に「やさしさ」なのだ。
様々な多様性から生まれた歪みを受けとめたうえで、より良い人間関係へ
シフトさせようとする、心のしなやかさにほれほれする。
何色にも染まることのできる思春期にこの一冊を。
池谷、イチオシのノンフィクションです。